



# 第4回

## 科学コミュニケーション・カフェ

東京大学 科学技術コミュニケーション部門

### — 「サイエンスコミュニケーション」の コミュニケーション—

2025/03/01 15:00~17:00

@Zoom ウェビナー

ゲスト：野口範子・渡辺政隆・元村有希子・榎太一

司会：内田麻理香

# 企画趣旨

- ・ 2005年の「科学技術コミュニケーション元年」以来16年、あるいはそれ以前から、国内外の各所で科学コミュニケーションの実践が行われてきました。
- ・ そのなかで科学コミュニケーターは専門家と市民をつなぐ努力を重ねてきましたが、一方で各所の科学コミュニケーター同士のコミュニケーションは希薄だったのではないのでしょうか。
- ・ それぞれの経験を共有するとともに、これまでを反省的に捉える場があって良いのではないか。そのような思いから科学技術インタープリター養成プログラム（現・科学技術コミュニケーション部門）では、科学コミュニケーションについて語り合う「科学コミュニケーション・カフェ」（科コミカフェ）シリーズを始めます。

※今回は、ご参加頂いた人数が多いこともあり、「サイエンスカフェ」形式ではないことをご了承ください

○ 教育する

□ 研究する

△ 発信する

教育する

Education

研究する

Research

発信する

Engagement

東京大学 総合文化研究科・教養学部  
附属 教養教育高度化機構 科学技術コミュニケーション部門  
<https://scicom.c.u-tokyo.ac.jp/>



第21期(2025年10月開講)

# 受講生募集

## 東京大学大学院副専攻 科学技術インタープリター 養成プログラム

東京大学では、文系及び理系の全学の大学院生を対象に「科学技術インタープリター養成プログラム」を開講しています。科学技術を「どう伝えるか」だけでなく、「何を伝えるか」にも力点を置き、社会のさまざまな場面で、一般社会と科学技術の架け橋となるリーダー的・触媒的人材の養成を目指しています。

### ◎ 募集説明会

2025年4月18日[金] ..... 18:45~19:45

Zoomで開催(プログラムのページで申し込みください)

\*当日参加できない方は個別にご相談ください

### ◎ 出願期間

2025年5月26日[月]~5月30日[金]

(応募書類は募集説明会当日以降、総合文化研究科ウェブサイトよりダウンロードしてください)

### ◎ お問い合わせ

東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属教養教育高度化機構

科学技術コミュニケーション部門

TEL : 03-5465-8828

Email : [info@science-interpreter.c.u-tokyo.ac.jp](mailto:info@science-interpreter.c.u-tokyo.ac.jp)

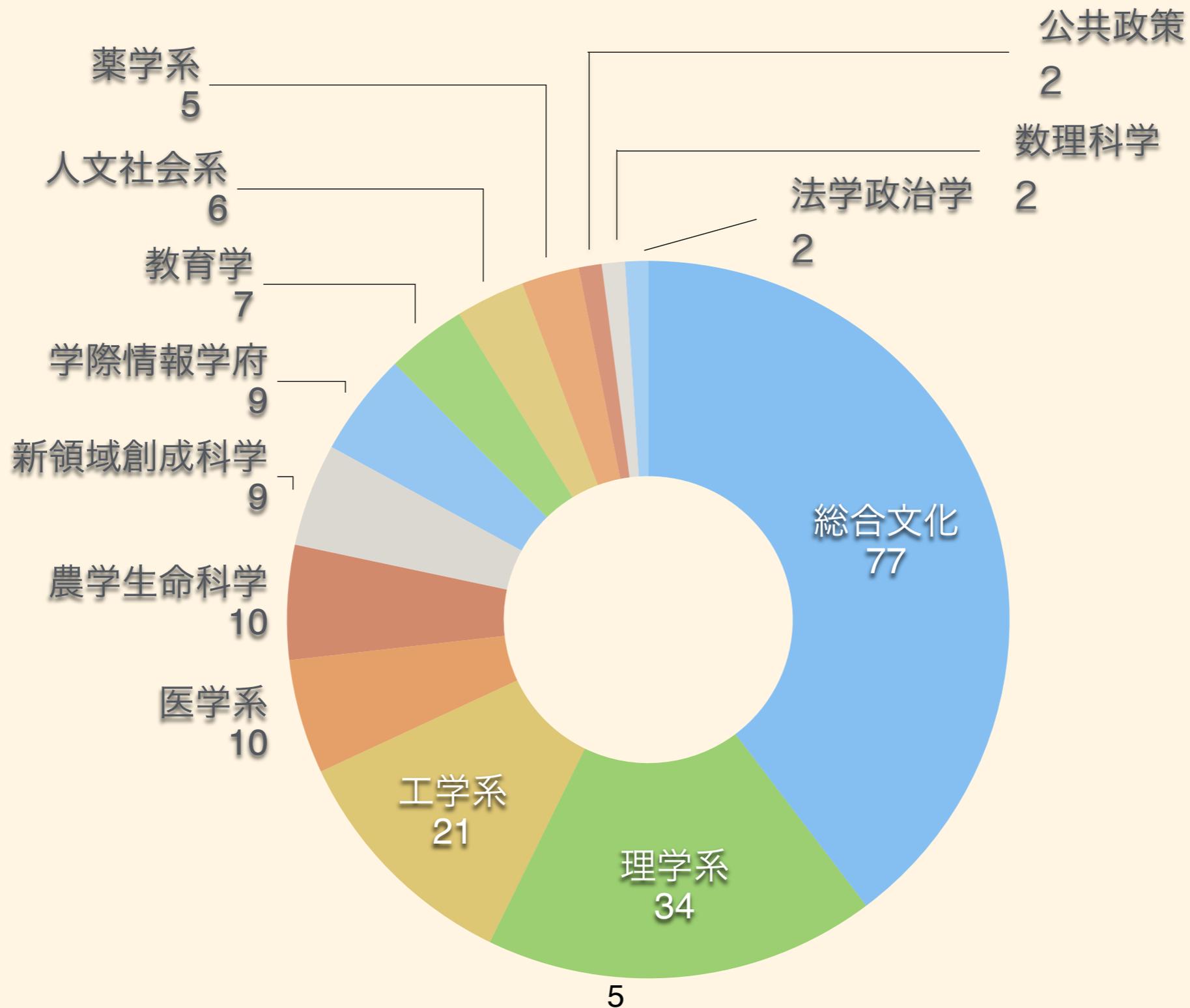
<https://scicom.c.u-tokyo.ac.jp>



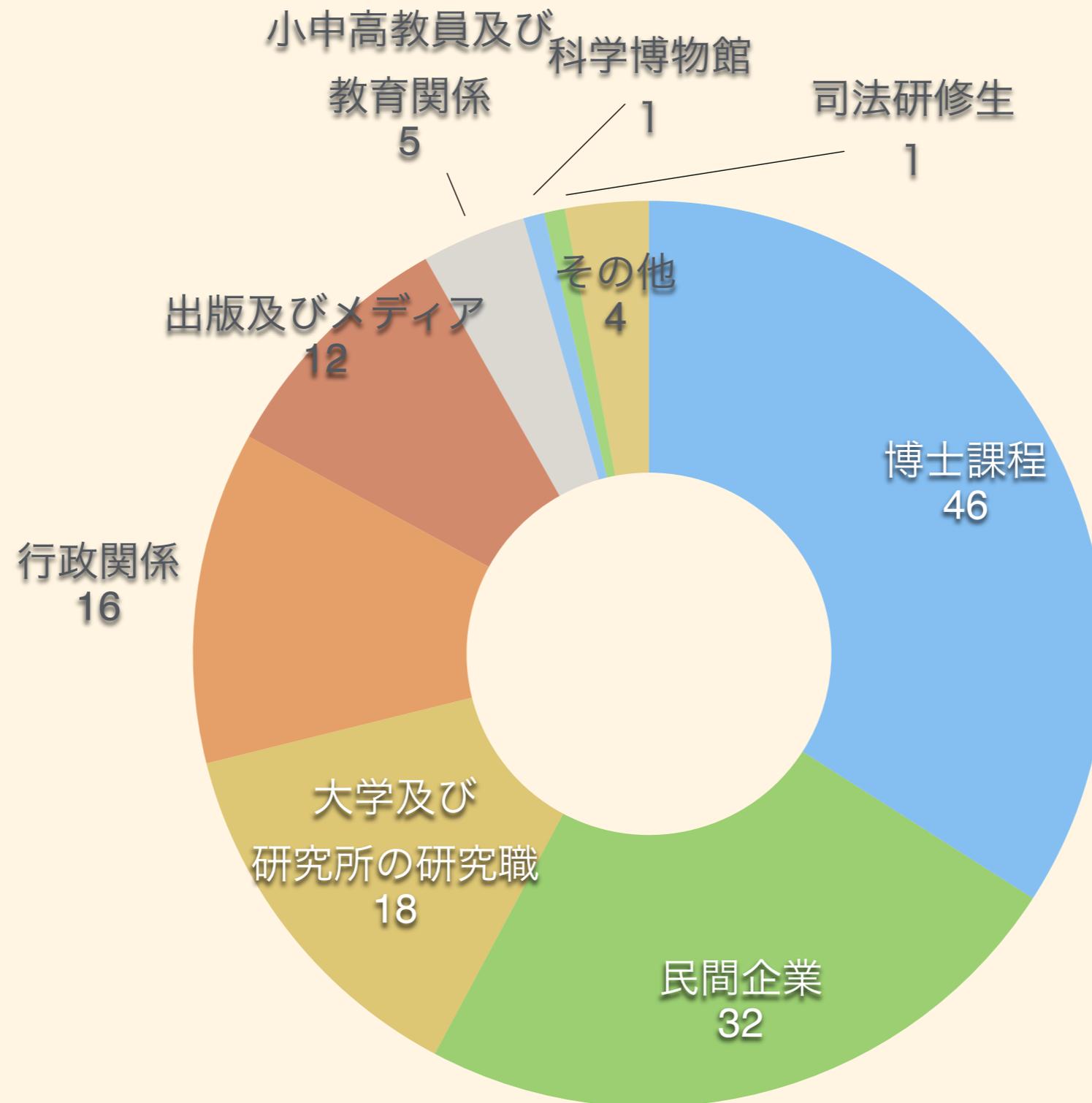
何を伝えるか、どう伝えるのか。  
科学と社会をつなぐ架け橋

- ・ 大学院生向けの副専攻
- ・ 科学技術を「どう伝えるか」(研究をどう社会に発信するか)だけでなく、「何を伝えるのかか(科学と社会の関係をどう考えるか)に力点を置く
- ・ 一般社会と科学技術の架け橋となるリーダー的・触媒的人材の養成

# これまでの履修生197名の所属研究科 (2025年3月、～20期生)



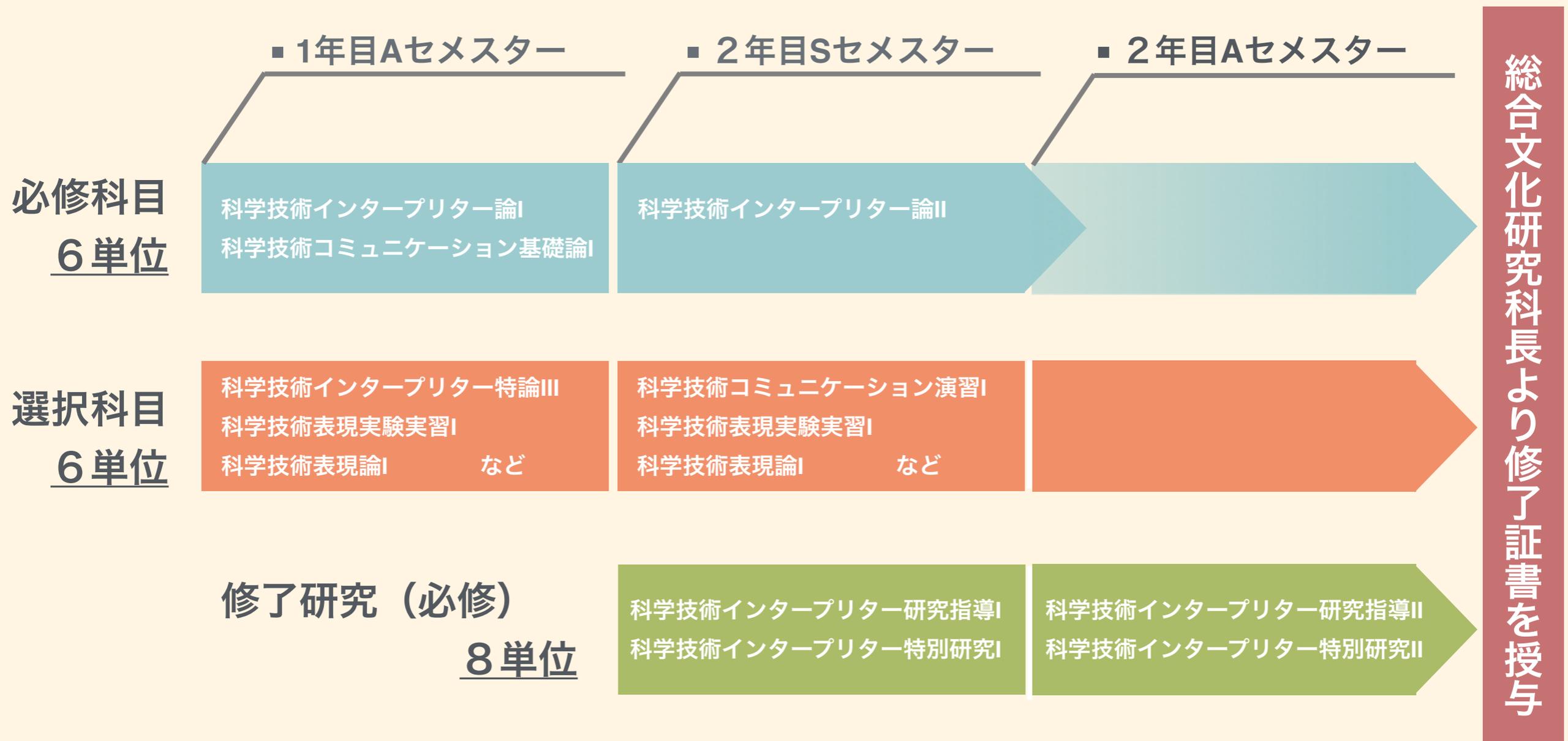
# 修了生の進路 (2024年3月)



# 履修期間：最短1年半で修了

(東大院生である限り延長可能)

最短18ヶ月間で20単位取得により修了



## I 歴史と背景

第1章 英国における科学コミュニケーションの歴史  
(水沢光)

第2章 米国および欧州の傾向 (水沢光)

第3章 日本における科学コミュニケーションの歴史  
(藤垣裕子・廣野喜幸)

## II 理論

第4章 科学コミュニケーション (廣野喜幸)

第5章 PUS論 (藤垣裕子)

第6章 受け取ることのモデル (藤垣裕子)

第7章 伝えることのモデル (廣野喜幸)

## III 実践と実態調査

第8章 出張授業にみる科学コミュニケーション (大島まり)

第9章 伝える側の評価：科学技術ジャーナリズムを題材として  
(草深美奈子)

第10章 受け取る側の評価 (船戸修一)

## IV 隣接領域との関係

第11章 科学教育 (廣野喜幸)

第12章 市民参加と科学コミュニケーション (藤垣裕子)

第13章 科学者の社会的責任と科学コミュニケーション  
(藤垣裕子)



2008年刊行、2020年新装版

## 第I部 科学コミュニケーション再訪（理論篇）

第1章 「空間人間観」を越えゆくために一欠如モデルの歴史的 위치づけ（廣野喜幸）

第2章 一般市民の文脈、自然科学者の文脈—文脈モデルの含意（廣野喜幸）

第3章 科学コミュニケーションの垂直モデルと水平モデル（廣野喜幸）

第4章 科学コミュニケーションのモデル—欠如モデルから垂直モデル／水平モデルへ（内田麻理香）

第5章 市民参加における水平モデル（定松淳）

## 第II部 メディアの現場から（実践・事例篇）

## 第III部 これからの科学コミュニケーション、その広がり（展望篇）



2023年刊行



## 東大インプリ

東大院生に限る

10人前後／年＝書類＋面接

1年半～

修了研究を含む20単位以上

無料

2名

自らの専門性を持ちつつ、  
科学と社会をつなぐことのできる人材

後期教養教育

対象

人数

履修期間

修了要件

学費

専従スタッフ

目標

学内の位置づけ



## 北大CoSTEP

大学卒業程度の素養をもつ方

70-80名（本科25＝書類＋面接／  
選科40＝書類のみ／研修科10）

約1年（5月～3月）

講義レポート6本提出  
＋演習・実習出席7割

（本科）一般48,000円、北大生20,000円  
（専科）一般23,000円、北大生10,000円  
（研修科）一般38,000円、北大生20,000円

8名

- ・ ミッション：CoSTEPは、科学技術コミュニケーションの入口として、知を創造する開けたコミュニティをつくり出すことで、暮らしやすい社会に貢献します。
- ・ ビジョン：CoSTEPは、科学技術コミュニケーションの「価値創造性」と「おもしろさ」を広く伝えていきます。

研究・教育・実践

# サイエンスコミュニケーションを学べる組織

- ・ 北海道大学：科学技術コミュニケーション教育研究部門 (CoSTEP)：2005年～
- ・ 国立科学博物館：サイエンスコミュニケーター養成実践講座：2006年～
- ・ 日本科学技術ジャーナリスト会議 (JASTJ)：科学ジャーナリスト塾：2002年～
- ・ 静岡科学館る・く・る：科学コミュニケーター育成講座：2012年～
- ・ 大阪大学・京都大学：公共圏における科学技術・教育研究拠点 (STiPS)：2012年～
- ・ 東京大学：科学技術インタープリター養成プログラム：2005年～
- ・ 同志社大学：サイエンスコミュニケーター養成副専攻：2016年～
- ・ 愛媛大学理学部：科学コミュニケーションプログラム
- ・ お茶の水女子大学大学院：サイエンス&エデュケーション研究所：2005年～
- ・ 立教大学 理学部 共通教育推進室 (SCOLA)：2004年～

"SaiBaco.net"

<https://scibaco.net/find-organizations>

# 趣旨説明

- ・ 2005年の「サイエンスコミュニケーション元年」以降、サイエンスコミュニケーションに関する様々な取り組みがなされてきましたが、その名が十分に周知されているとは言いがたい状況です。
- ・ 今回は、同志社大学でサイエンスコミュニケーター養成に携わってきた4人をお招きします。多彩で多様なバックグラウンドをお持ちの方々から、「サイエンスコミュニケーション」のコミュニケーションに関する現在の課題、今後の展望について語っていただきます。

# 本日の流れ

1. 同志社大：サイエンスコミュニケーター養成副専攻の紹介（野口先生）
  - 各先生との出会い&関わり（野口先生＋各先生）
2. 認知されないサイエンスコミュニケーション
3. サイエンスコミュニケーションは共通の目標を掲げることがができるか？

- ・ 呉越同舟のサイエンスコミュニケーション
- ・ サイエンスコミュニケーションを担う人々、含まれる活動の多様さ
  - 科学者、行政、理科教育、メディア関係者…目指すところが多様
  - 実践と研究
- ・ 世間のイメージと実態の乖離
  - 活躍しているプレイヤーの多くはSNSに登場しない
  - それゆえ？「サイエンスコミュニケーターは何もしていない」などの批判も
- ・ そもそも、これ以上認知される必要があるのか？

# さまざまなサイエンスコミュニケーション

種別	内容
トークイベント	講演会、討論会、ワークショップ、サイエンスカフェ、読み聞かせ…
学習	学校の授業、生涯学習、カルチャーセンター、ワークショップ式講習会…
展示・ショー	科学館展示（解説）、プラネタリウム、サイエンスショー、科学フェスティバル、サイエンスアート…
放送・報道メディア	科学ニュース・解説、科学番組の制作・放映…
出版メディア	科学雑誌、科学書…
体験	実験教室、工作教室、ワークショップ、科学ボランティア…
参画	コンセンサス会議、テクノロジーアセスメント、リスクコミュニケーション、サイエンスショップ、市民科学…
行政	パブリックコメント、広報活動…
企業活動	リスクコミュニケーション、社会貢献…

# いただいた質問

- ・ 科学コミュニケーター・科学コミュニケーションという単語で相手の想像するものがことなりすぎていることで、取り組みやスキルのイメージ共有に時間がかかります（その信頼がないと、初めての人とは次のステップにいきづらい）。

私は理論研究はしておらずほぼ実践のみなので、現場ではそもそも科学コミュニケーションという言葉を使わない方がいいのかなとも思っていますが、他の方のご意見も伺ってみたいです。

その一方で、ある一定の専門家集団を可視化するために、長期的には科学コミュニケーションという言葉と意味を、社会と形成していければよいなと考えています。

同志社大：  
サイエンスコミュニケーター  
養成副専攻

認知されない  
サイエンスコミュニケーション

サイエンスコミュニケーションは  
共通の目標を  
掲げることができるか